

JFM だより

vol. 25

INDEX

- 01 融資の実
- 05 がんばる公営競技
- 07 JFM Topics
- 11 地方支援ダイアリー
- 13 金融ひとくちメモ
- 17 人事交流日記&ふるさと紹介
- 18 編集後記
- 19 機構からのお知らせ
- 19 私たちもJFM債買ってます!

[JFMとは、**J**apan **F**inance Organization for **M**unicipalities の略称です。]

Feature

神奈川県厚木市 厚木市立病院



地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities



融資の実  機構の融資が、どのように活かされているかをご紹介します。

Feature 神奈川県厚木市 厚木市立病院

新病院として高度な医療体制を整え、 地域の基幹病院としての使命を担う

厚木市立病院は平成29年11月、新病院の建設がすべて完了し、「市民の皆様に信頼される医療を提供する」という基本理念のもと、新たな一步を踏み出しました。厚木市をはじめとする県央地域の基幹病院として、高度急性期・急性期医療を提供しています。

高度な医療体制を整えた新病院

厚木市立病院は、厚木市を中心とする神奈川県の中
央地域における公立の基幹病院として、急性期をはじめ
とした二次医療や、専門性に基づく高度医療を提供して
います。

その歩みは昭和26年、神奈川県立病院として開設さ
れたことに始まります。その後長らく地域の基幹病院とし
ての役割を担ってきましたが、地域環境の変化とともに
やがて経営が困難となりました。一時は民営化も検討され
ましたが、地元自治体の強い要望によって神奈川県
から厚木市に経営が移譲され、平成15年に新しく厚木
市立病院として再出発しました。その後、施設の老朽化
や耐震対策などの理由から、平成22年に「厚木市立病
院整備基本計画」が策定され、さらに検討が重ねられて
平成24年から新病院の建設がスタートしました。

新病院の工事は、診療を継続しながら進めるため
に、3つの工期に分けて行われました。平成27年に急性
期医療の中心となる救急手術棟と外科系病棟、平成
28年に外来診療部門と内科系病棟が完成し、すべて
の病院機能がスタートしました。さらに平成29年11月、
駐車場などを含めた全施設の整備が完了し、12月から
新病院として新たな一歩を踏み出しました。厚木市で
は、新病院の建設財源の一部に病院事業債を活用し
ています。

「新病院の建設は、厚木市政において最大のプロジェ
クトであり、市民の方々から大きな期待が寄せられてい
ます。『市民の皆様信頼される医療を提供する』ことを
基本理念に掲げ、質の高い高度医療を提供するととも
に、効率的な病院運営に力を注いでいます。」(厚木市立
病院 事務部門・内田晃病院事業局長)



▲ 厚木市立病院全景



▲ ICU



▲ ハイブリッド手術室(血管撮影装置)

高度急性期・急性期医療を担う

こうして新しくなった厚木市立病院では、高度急性期・急性期医療を担うために、がん・心臓病・脳血管障害・肺疾患・糖尿病など、さまざまな疾患に対応できる高度な体制を整えています。

新しい救急手術棟には、先進的な血管外科手術を行うことができる最新のハイブリッド手術室をはじめ、集中的な治療を可能にするICU・CCUや心臓カテーテル室などを設けて高度急性期医療に対応しています。さらには、旧病院と比較して2倍になった救急センター、同じく4倍になった血液浄化センター、320列CTや3テスラMRI、放射線治療装置など最新の診断機器や治療装置が稼働しています。

「厚木市内には、複数の民間病院があり、近隣には大学病院もあります。このような環境の中、私たち厚木市立病院は、地域医療と連携を図りながら、厚木市をはじめとする県央地域の西部約30万の人々を対象に、高度医療を提供することを使命としています。新病院の建設によって、高齢化の進展に伴い需要の増加が予想されるがんや心臓病、脳血管障害などに対応するため、地域の中核病院にふさわしい充実した設備と医療スタッフを整えることができました。」(厚木市病院事業管理者・山本裕康院長)

診療科目も15科から27科に拡充し、より専門性を高めた診療体制を確立しました。脳梗塞や脳動脈瘤への血管内治療に加え、新設した血管外科では、負担の少ないステントグラフトによる大動脈瘤の治療も実施しています。

さらに、敷地内に180台収容できる駐車場を整備するなど、利便性も大幅に改善しています。また、神奈川県

の災害拠点病院として、免震をはじめとする多様な機能を備えています。



融資の実 都心にほど近い豊かな自然とグルメの街



▲ 心臓カテーテル室(血管造影装置)



▲ MRI(1階)



▲ CT(1階)



▲ 本厚木駅北口広場

▼ 相模川



厚木市は、神奈川県のほぼ中央、一級河川の相模川と丹沢山地に挟まれたエリアに位置します。面積93.84km²、人口は約23万人。東京都心から電車で約1時間という距離にあります。東名高速道路などに加えて平成30年1月には新東名高速道路の厚木南インターチェンジから海老名南ジャンクションまで開通し、今後は厚木秦野道路のインターチェンジ開設が予定されるなど、交通アクセスに恵まれた都市です。

このような環境のもと、市内には多くの企業や学校が集まります。市街地の中心にある本厚木駅では、1日平均15万人の乗降があり、ターミナルではない単独駅としては全国有数の規模といわれています。また最近では、全国市区を対象とした「経営革新度調査」や「共働き子育てしやすい街ランキング」で上位に選ばれるなど、市政の取り組みも注目を集めています。

都心に近い距離にありながら、丹沢山塊の大山や相模川などの豊かな自然に

時代や患者様のニーズに柔軟に対応

先進の医療設備とともに、充実した医療スタッフを揃えていることも厚木市立病院の大きな特徴です。

「高度な医療を提供し、患者様の満足度を高めるためには、医師をはじめ医療スタッフの満足度を向上することが欠かせません。トップレベルの医療機器を数多く揃え、先進医療に携わりたいという医師たちの意欲に応える環境を実現できていると思います。」(山本事業管理者)

高度な医療設備を整えるばかりでなく、病院内のレイアウトにも随所に工夫を凝らしています。医師たちのデスクがある医局は、診療科などで区切らない大部屋風のオープンな環境のため、日頃から医師同士のコミュニケーションを密にすることができ、それにより医師の知識の幅が広がり、診療科間の連携もスムーズになって、患者様の満足度向上にも結びついています。

「市民の方々が高度な医療を身近に受けることができ、救急の際も速やかに対応できる病院を目指しています。患者様の生の声を真摯に受け止めて、さらなる医療品質の向上や経営の改善に反映しています。これからも時代の動きや患者様のニーズに柔軟に対応し、高度な医療の提供に努めていきます。」(山本事業管理者)



▲ 病室(個室)



▲ CCU

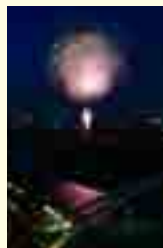


▲ 医局



▲ 山本 裕康 厚木市病院事業管理者・厚木市立病院院長

加え、2つの温泉郷を有するなど、多彩な観光資源を持つことも厚木市の特徴です。グルメの街としても知られ、B級グルメの大会でグランプリに輝いた「厚木シロコロ・ホルモン」をはじめ、豚肉を特製のみそに漬け込んだ「とん漬」、相模川で獲れる鮎など自慢の名物が数多くあります。厚木市では、このような魅力ある「食」を「あつぎ食ブランド(愛称:あつぎOEC(おいしい)フード)」として認定し、広くPRしています。



▲ あつぎ鮎まつり



▲ アユ



▲ 厚木シロコロ・ホルモン

神奈川県厚木市

人口 225,753人 (平成30年2月1日現在)
世帯数 98,373世帯 (平成30年2月1日現在)
面積 93.84km²

厚木市